

1. 総評

(1) 年度初めの学校の状況 【学校の現状及び前年度の成果と課題】

学校の現状（よさと課題）

① 学校

〔よさ〕 創立132周年の歴史と伝統のある学校である。また、これまで区教育委員会コアスクール及び教員研修協力校として、先進的な教育活動に取り組み、足立区全体の教育活動をリードしてきた学校である。

〔課題〕 新入生の本校選択率はここ数年間、約60%と低迷していたが、昨年度は68%になり、上昇に転じている。今後も、教職員がチームとして組織的に教育活動に取り組み、児童・保護者・地域の真のニーズに応える学校づくり目指していく。

② 児童

〔よさ〕 児童は、素直で穏やかな気風を残している。また、いわゆる「学級崩壊」と呼ばれるクラスもなく全クラスで落ち着いた学校生活を送っている。登校班や縦割り班遊びでは、高学年の児童が優しく低学年の児童の世話をする姿が見られる。

〔課題〕 足立区学力総合調査では、区内で中位の成績である。教科の面では、国語の読み取る力に若干課題があり、また教科を問わず高学年ほど、達成率が低くなる傾向がある。さらに、基礎的・基本的な学力を含め、どの教科においても個人差の開きが見られる。読解力やコミュニケーション能力を伸ばすこと、個に応じた指導をさらに充実させ、一人一人に確実に基礎学力をつけることが課題である。

③ 教師

〔よさ〕 管理職を除く17名の教員は、主幹2名、主任教諭5名、教諭8名、主任養護教諭1名の体制である。教諭8名中7名は本校が初任校の教員経験1～7年目の教師であり、主幹を中心にベテラン、中堅、若手が互いのよさを認め合い、また経験豊かな講師陣も加わり、バランスよく学校を運営している。また、個々の教員は大変まじめで、教育への情熱をもった者が多い。

〔課題〕 日常の教育活動や校務分掌など、OJTの中で若手教員を育て、授業力と学校運営力を高めていくことが大きな課題になっている。特に、足立区教育委員会教員研修協力校として、本校だけでなく、区内の若手教員の育成に貢献するために、個々の教師の力量を一層高めることが求められている。さらに、個々の教員の豊かな個性を生かしつつ、組織として、チームとして、共通の目標に向かう中で、6年間を見通した子どもたちにとって最善の教育をめざしていく。

④ 保護者・地域

〔よさ〕 学校の教育活動に積極的に理解し協力していただける保護者や地域の皆様が多い。PTA、開かれた学校づくり協議会、図書館ボランティア、吹奏楽部保護者の会、お父参会、キッズパレット実行委員会等、保護者・地域の皆様には学校や児童のための自主的な活動を進めていく力と実績が十分にある。

〔課題〕 授業参観や保護者会では、学年が進むにつれて参加率が下る傾向がある。学校の教育方針を様々な場面や機会を通して発信し、学校で取り組むべきこと、家庭・地域で取り組んでいただきたいことを伝えていく必要がある。また、家庭生活においても、児童の自己肯定感を育てていくことが重要である。

(2) 今年度の重点目標とそれに向けた取組みの概要

重点的な取組事項－1 児童の自信と学習の構え（学習環境や学習態度）を高める

- 児童の自己肯定感を醸成し、児童の自己肯定感を高める。
- 教室の整理整頓をする（ロッカー、机の中、床のごみ、廊下の雑巾、靴箱等）。
- 言語環境を整える（返事、発言の語尾、敬称をつける等）
- 集団行動の3つの約束を守る（目で話を聞く、時間を守る、あいさつをする）

重点的な取組事項－2 児童の学力を向上させる

- 漢字力や計算力などの基礎学力を確実に定着させる。
- 読書活動を推進し、読解力の向上を図る。
- 国語や算数の基礎的・基本的な学力を伸ばす。
- 学び合い、課題を解決する活動を通じて、自ら考え、解決する力を育てる。

重点的な取組事項－3 若手教員の授業力を高める

- 足立区教育研修推進校として、教員研修会において質の高い授業を提供し研修の機能を果たす。
- 授業を公開したり講師の指導を受けたりして、授業の質を高める。
- 本校採用の若手教員及び、都教師養成塾生、教育実習生を授業力のある教員に育てていく。

重点的な取組事項－4 児童の健康・体力を向上させる

- 全学年で体力テストを実施し、分析結果をもとに、児童に実態に応じた体力向上推進策を講じる。
- 健康や体力の向上に関心を持つ児童を育てていく。
- 規則正しいリズムで生活できる児童を育てる。

(3) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項－1 児童の自信と学習の構え（学習環境や学習態度）を高める

- 各学級において、互いのよさや学級のよさを発表しあったり、学びあう活動を積極的に取り入れたりとすることで自分を肯定的にとらえる児童が増えてきている。
- 学習や学校生活の規律を丁寧に指導することで、集団での話の聴き方、整理・整頓、あいさつがきちんとできる児童が増えている。正しい言葉遣いは今後の課題である。学校全体は大変落ち着いた状況を保っている。
- 自己肯定感、学習規律等、全体としては大変高まっているが、やはり個人差は否めない。課題を抱える児童へのより一層きめ細かな指導が必要である。

重点的な取組事項－2 児童の学力を向上させる

- 校内研究において国語の読解力に焦点を当てて研究を充実させたことにより、読書に積極的に取り組む児童が増えてきている。また、漢字力については8割の児童が80点以上取ることができた。
- 算数の計算力については、低学年はチームティーチングにより、8割以上の児童が80点以上取ることができている。
- 高学年については、算数少数習熟度別学習を実施しているが、計算力は80点以上が6割程度となっている。平均点にすると70点を超しているので、70点付近の児童の正確性を増すことと習熟の低い児童の底上げを目指した少数指導の在り方を検討する必要がある。
- 各学年2回以上、地域の人材・施設に協力いただいた授業や専門家を招いた授業を実施した。より具体的な課題をもち解決に向けて主体的に取り組む児童が増えている。

重点的な取組事項－3 若手教員の授業力を高める

- 足立区教員研修推進校として各種研修会に数多くの研究授業を提供することで、若手教師が実践を通じた授業力の向上を行うことができた。
- 校内研究では国語科に教科を絞り、全担任が研究授業を行った。授業がわかったと評価する児童が95%に達し、大きな成果を収めた。
- 足立区教育委員会教員研修協力校の実践は、次年度も継続していくことが肝要であると考えます。
- 授業がわかったと評価する児童が多い反面、国語の授業が好きだと答える児童が高学年になるほど減少するので興味関心を高める指導法も合わせて研究していく必要がある。

重点的な取組事項－4 児童の健康・体力を向上させる

- 校庭遊具を活用した運動カードの作成や弘道アスレチックコースの設定等により、体育の授業や休み時間に全校的で共通の運動に取り組むことができた。
- 歩数計を活用し、日常生活や体育授業時の運動量を測定することで、運動や生活習慣への意欲が高まった。
- 年間を通じた体育的行事や新たな取組みにより、体力や健康の大切さを実感したり、体力や健康が高まったと感じたりしている児童が90%以上という結果となった。
- 学力同様、よく運動する児童とそうでない児童の差が大きい。家庭での運動や生活習慣も含め、家庭への啓発、日常化につながる取組等をさらに検討していく必要がある。

(4) 保護者や地域へのメッセージ

- 本校児童は、素直で穏やかな気風をもっている。児童の自己肯定感を醸成すること、集団生活の規律を高めること、あいさつなどの礼儀を大切にすることにより、学習や学校生活の構えが育ち、児童は大変落ち着いた生活を送っている。児童が落ち着いて、そして安心して学校生活を送ることは、学校教育の基盤として大変重要なことである。この基盤があつてこそ、その上に学力や体力、豊かな心が積み上げられ、育っていくものと確信する。今後も取り組みを継続するとともに、保護者・地域の方々にも児童に温かな声をかけていただき信頼される学校をつくっていききたい。
- これまでも学習面では、国語・算数において、少人数指導・習熟度別指導を取り入れるなど、様々な取り組みを進め、成果をあげてきた。校内研究においては国語科に焦点を絞り、充実した研究を行い成果を上げている。来年度より、全面実施される新学習指導要領を踏まえ、新たな教科等にも目を向けて、今求められる力を児童に確実につけていくことができるよう取り組んでいく考えである。土曜授業の実施も含めて、質の高い学習活動を行うために、保護者の方々の協力を今まで以上にいただきたい。
- 今年度より、体力向上を重点的な取り組みにあげ、全校で取り組んできた。足立区陸上大会で男子総合優勝、男女総合3位など、本校の歴史上初の成績を上げることもでき、着実に成果は上がってきていると実感している。体力向上は、生活習慣も大きく影響するため家庭の協力をさらに得ていきたい。文武両道をこれからも目指し、健全な頭と心と体の育成に励んでいく。
- 保護者・地域の皆様は、学校の教育活動や、地域で児童の下校の安全を守る活動等に対して、大変協力的である。また、PTA、開かれた学校づくり協議会、「お父参会」、図書館ボランティア、吹奏楽保護者会など、それぞれの組織のよさを生かしながら自立的に活動していただいている。今後も引き続き児童の成長のために活動していただけることを期待したい。
- 足立区教育委員会教員研修推進校として、研究や研修を進め、研修機能や研究機能を発揮し、足立区の教育に貢献してきた。その実践は、足立区内の小学校の教育活動に生かされるとともに、本校の教員の授業力向上や若手教員の育成に大きな力となっている。保護者や地域の皆様には、本校の教員が子どもたちのために惜しみなく力を発揮していることについて、今まで以上に温かな声援を送っていただければ幸いである。

2. 平成22年度の重点的な取組事項

<達成度 ◎:十分に達成 ○:おおむね達成 △:達成せず ●:課題が残る>

重点的な取組事項－1 児童の自信と学習の構え（学習環境や学習態度）を高める。

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
児童の自信と学習の構え(学習環境、言語環境、学習や集団行動の規律)を整え、落ち着いた学校生活の態度を育てる。	指導の通りによくい学級を引き続きゼロにする。	指導の通りによくい学級は本年度もゼロにすることができた。	全教職員で児童の自己肯定感を醸成し、学習や学校生活の構えを育ててきた結果ととらえる。学校教育の基盤として来年度も継続させたい。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
児童の自己肯定感を醸成し、児童の自己肯定感を高める。	80%以上の児童が、自己肯定感に関する問いに「あてはまる」と答える。	・授業や学校生活の中で、教師自らが児童のよさに注目し、学級の中に広げていく。 ・発表の機会や話し合い活動を積極的に取り入れ、互いのよさに気づいていくようにする。	92%の児童が、自己肯定感に関する問いに「あてはまる」と答えている。	・学校生活の中で、教師が児童のよさに注目し、認め励ますことを継続した。 ・発表の機会や話し合い活動を積極的に取り入れてきたが、その質についてはより高めていきたい。	◎

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
教室の整理整頓をする(ロッカー、机の中、床のごみ、廊下の雑巾、靴箱等)	80%以上の児童が、各学年の重点事項について、できるようにする。	・学年・専科ごとに学年・専科経営案に基づいて重点項目を決め、取り組む。	教室等の整理整頓について、84%の児童ができるようになっている。	・ロッカー、机の中の整理整頓の状況には児童の個人差が見られるので全校で差異なくしていく。	○
言語環境を整える(返事、発言の語尾、敬称をつける等)	・80%以上の児童が、朝のあいさつをはっきりした言葉でできる。 ・80%以上の児童が、授業中の話し方や言葉遣いなど、正しくできる。	・生活指導部が中心になり、朝会や集会等でよい例を示すなど指導を繰り返す。開かれた学校づくり協議会にも協力を求める。 ・学年に応じた共通の発言や発表等の話型を作成し、全校で取り組む。	・83%の児童が、朝のあいさつをはっきりした言葉でできる。 ・73%の児童が、授業中の話し方や言葉遣いなど、正しくできる。	・生活指導の重点として指導を繰り返した。児童が自主的にあいさつ運動を進める姿が見られた。 ・学年に応じた共通の発言や発表等の話型については研究の途上で、次年度も全校で取り組む。	△
集団行動の3つの約束を守る(目で話を聞く、時間を守る、あいさつをする)	・90%以上の児童が、朝礼時に開始時間を守って、静かに集合することができる。 ・90%以上の児童が、生活時程を守って生活することができる。	・朝礼時や集会時に、看護当番・生活指導主任・管理職が指導する。 ・教師自らが、時間を守り、1時間1時間を大切にす姿勢を示す。	・ほぼ100%の児童が、朝礼時に開始時間を守って、静かに集合することができる。 ・75%の児童が、生活時程を守って生活することができる。	・集合時刻を守る、静かに話を聞くなど、全校で徹底することができた。 ・教室移動がある授業の際に遅れる児童がいる。教師自身も開始・終了の時間を守る必要がある。	○

重点的な取組事項－2 児童の学力を向上させる

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
漢字力や計算力などの基礎学力や各教科の基礎的・基本的内容の定着及び、思考力・判断力・表現力など、自ら学ぶ力を育成する。	区、都、国の学力調査において、達成率、平均正答率を向上させる。	区学力調査国語(読む力)において、区平均正答率と比較し、5学年で向上させることができた。	国語の授業が「よくわかった」と答える児童が非常に多い。しかし、長文の読み取りや難解な表現の理解については次年度の課題である。	○

目標実現に向けた取組	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
漢字力や計算力などの基礎学力を確実に定着させる。	年度末に基礎学力に関する調査を行い、各学年で身につける漢字や計算の問題を8割以上の児童が80点以上とれる。	・朝学習や補習教室、国語・算数の授業、宿題や家庭学習等あらゆる機会を通して定着を図る。	漢字の問題を8割以上の児童が80点以上とることができたが、計算の問題は68%だった。	後期より学習補習教室を増加させたが、計算の平均70点台の層の引き上げを必要である。	○

目標実現に向けた取組	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
読書活動を推進し、読解力の向上を図る。	児童一人当たり、年間20冊以上の読書をする。	<ul style="list-style-type: none"> 朝読書や家庭での読書の機会を大切に、ページ数や冊数、推薦図書読破等の具体的な目標もたせ、読書活動の充実を図る。 	児童一人当たり、年間平均43冊の読書をした。	<ul style="list-style-type: none"> 高学年と低学年の冊数に大きな差異が見られたため、発達段階、生活時間、ページ数などを分析して具体的な目標もたせることが課題である。 	○
国語や算数の基礎的・基本的な学力を伸ばす。	平成23年度の足立区学力総合調査の国語科、算数科の達成率が区の平均達成率と比較し、2ポイント以上上回る。	<ul style="list-style-type: none"> 国語・算数における少人数指導やティームティーチングによる指導の一層の充実を図る。 足立区キッズアカデミーやサマースクールと連携して、基礎的・基本的な学力を定着させる。 校内のチャレンジカードの使用方法を工夫する。 	平成23年度の足立区学力総合調査の国語科、算数科の達成率が区の平均達成率と比較するため、現段階では評価できない。	<ul style="list-style-type: none"> 国語・算数における少人数指導による指導の一定の成果が見られるようになってきた。 キッズアカデミーとの連携については検討の課題が残った。 土曜授業の個に応じた指導に校内のチャレンジカードを活用したい。 	—
学び合い、課題を解決する活動を通じて、自ら考え、解決する力を育てる。	地域の人材や施設等を活用した授業や優れた人物や専門家、文化との出会いのある授業を各学年において年間2回以上実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間や生活科、社会科、理科の授業等を中心に、地域を教材とした学習活動や地域の方や専門家等を招いた授業を行う。自分で課題を持ち、仲間と協力して解決していく学習を推進する。 パソコンや電子黒板等の情報機器を積極的に活用し、情報の収集、選択、活用等の力を育てていく。 	地域の人材や境・施設等を活用した授業や優れた人物や専門家、文化との出会いのある授業を各学年において年間2回以上実施するこつができた。	<ul style="list-style-type: none"> 次年度、新学習指導要領に適した指導と評価が課題である。 電子黒板等の活用状況は教員間で差があるので積極的活用を継続して指導していく。 	○

重点的な取組事項－3 若手教員の授業力を育てる

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
足立区教育委員会教員研修推進校としての研修機能を発揮しながら、本校の若手教員の育成を図る。	保護者、開かれた学校づくり協議会委員の授業診断において、中以上の評価を得る。	保護者、開かれた学校づくり協議会委員の授業診断において、中以上の評価を得た。	足立区教育委員会教員研修推進校としての研修機能が本校の若手教員の育成にも確実に結びついた。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
区の教員研修会を実施し、質の高い授業を提供し研修の機能を果たす。	初任研、10年目研等で、年間延べ20回以上の参考になる授業を提供する。	・年度当初に指導室と協議し計画を立て、初任者を含め、全教員が授業を提供し、協議会での指導・協議にあたる。	初任研、10年目研等で、年間延べ20回以上の参考になる授業を提供することができた。	・指導室と実施方法、指導内容などを協議しながら、推進して区の研修に寄与した。	◎
授業を公開したり講師の指導を受けたりして、授業の質を高める。	全教員が、1回以上の研究授業を実施する。	・校内研究や区小研等における研究授業や管理職による授業視察により、全教員が研究授業を実施し、指導を受ける。	全教員が、1回以上の研究授業を実施した。	・授業の質をより高め、授業力の向上を継続してめざしていく。	○
本校採用の若手教員及び、都教師養成塾生、教育実習生を授業力のある教員に育てていく。	授業アンケートにおいて、「授業がわかった」という児童が80%以上とする。	・学年ごとに中堅・ベテラン教員と若手教員が組み、教員同士の学び合いを活発にする。 ・管理職が授業観察を毎月実施し、観点を決めて具体的な指導を実施していく。	授業アンケートにおいて、「授業がわかった」という児童が95%以上いる。	校内研究における国語科の研究による成果が見られた。反面、国語の授業が好きだと答える児童が高学年になるほど減少するので興味関心を高める工夫をさらに研究していく必要がある。	○

重点的な取組事項－4 児童の健康・体力を向上させる

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
たくましく生きるために必要な健康や体力、正しい生活習慣を定着させる。	全国体力調査の結果を東京都の平均よりも上回る。	全国体力調査の結果が東京都の平均よりも5月実施では8項目中4項目上回り、11月実施では7項目上回った。	体力向上を重点的な取り組みにあげ、全校で取り組んできた。足立区陸上大会で男子総合優勝、男女総合3位になるなど、着実に成果は上がってきている。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
全学年で体力テストを実施し、分析結果をもとに、児童に実態に応じた体力向上推進策を講じる。	体力向上に向けた新たな取り組み(体力向上KOUDOプロジェクトその1を2つ以上実施する。	・校庭遊具を有効活用し、全校共通の運動を作り上げる。 ・教員の体育実技向上のための実技研修を行い、体力や運動能力の高め方について学び合う。	体力向上に向けた新たな取り組み(体力向上KOUDO)プロジェクトその1を2つ以上実施した。	・校庭遊具の環境整備をしたり、学習カードを作成したりして運動の意欲を高めた。 ・校内実技研修会を行い、体力や運動能力の高め方について学び合った。	◎

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
健康や体力の向上に関心を持つ児童を育てていく。	年度末の児童アンケートにおいて、健康や体力の向上に関心を持っている児童の割合が80%以上とする。	・体力テストや日常の体育授業時、保健指導時の個々のデータや歩数計を活用した運動データ等を活用し、客観的に自分の健康や体力を振り返り、意欲や目標を持たせて生活をさせる。	年度末のアンケートにおいて、体力や健康の大切さを認識している児童が99%、体力や健康が向上したと感じる児童が91%だった。	・体育授業や休み時間の運動の質を高めてきた。歩数計を一人一つ持たせ、客観的に自分の健康や体力に意欲を高める活動を継続していきたい。	◎
規則正しいリズムで生活できる児童を育てる。	年度末の児童と保護者アンケートにおいて、早起き・早寝・朝ご飯の約束ができていた児童の割合が90%以上とする。	・学校と家庭が取り組むべき学びの約束を保護者に提示し、啓発を図る。 ・学校便り等を活用し、定期的に啓発していく。	年度末の児童と保護者アンケートにおいて、早起き・早寝・朝ご飯の約束ができていた児童の割合が82%である。早寝・早起きは74%、朝ごはんは97%である	・学びの約束を保護者に提示し、啓発する方策を一層推進したい。 ・引き続き学校便り等を活用するとともに開かれた学校づくり協議会の協力を得て啓発していく。	△

3. 学校活動全般について

- 昨年度より、新1年生が小学校生活に早く慣れるようにするために、幼・保・小の連携を深めています。今年度は、ブロックの中心校として、近隣校・園の連携が今まで以上に充実するよう、取り組みをリードしてきました。入学前に双方を訪問し交流したり、学校生活を紹介したり、教員が互いに授業や保育を参観しあったり、新入生保護者会を2回実施したりして、児童・保護者が早く本校になじめるよう工夫しています。
- 教職員は、校長の経営方針に基づいて、児童の知・徳・体をバランスよく育てるように努力しています。校内研究、教員研究推進校の取り組みにより、授業力を向上させ、児童の学力を高める取り組みをしてきました。また、吹奏楽部とパフォーマンス部が2年連続で全国大会に参加したり、多くの児童が多様なスポーツ大会に参加したりするなど、児童の活躍の場を広げ、特色のある学校作りに向けて努力しています。
- 本校では、学校行事（入学式、卒業式、学芸会、展覧会、音楽会、宿泊学習等）や体育的行事（運動会、夏季水泳教室、持久走大会、長縄大会、縄跳び旬間等）を通して、児童が高い目標を目指し、挑戦し、大きな成就感と感動を体験することを通して、健全な心や体を育てています。
- 本校では、生活科、社会科、総合的な学習の時間、特別活動等、様々な場面で地域の自然や人々とかかわる体験学習の機会を多く設けています。また、専門家やその道のプロの方々をお招きするなど、児童が「ほんもの」と触れ合うことにより、課題を身近に感じ解決しようとする意欲やこれからの生活に夢や希望、あこがれをもつことを大切にしています。さらに来年度は、「和の文化」をキーワードとして、積極的に学習活動に取り入れ、豊かな感性を一層伸ばしていきたいと考えています。